



THE ROTARY CLUB OF KUSHIRO WEST 2010~2011(平成 22 年~23 年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和 45(1970)年 6 月 8 日 承認 昭和 45(1970)年 6 月 10 日

2010~2011 RI テーマ 「地域を育み、大陸をつなぐ」

《本日のプログラム》 11 月 29 日 18:00

夜間例会

クラブフォーラム

《次回のプログラム》 12 月 6 日 12:30

普通例会

次年度理事・役員選出

《例会日:毎週月曜日 12:30~13:30》

《例会場:釧路全日空ホテル 釧路市錦町 3-7》

会長 石川 俊二 幹事 三木 克敏

■クラブ事務所■

釧路市幸町14丁目1-1 ノースコートサンスイ2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

2010 年 11 月 29 日(月) 第 16 回 通算 1899 回

【点鐘】 石川会長

【ロータリーソング斉唱】 「それでこそロータリー」

ソングリーダー:小泉会員

【会長挨拶】 石川会長



みなさんこんばんは。いよいよ寒くなってまいりましたが、暦も明日一日で一枚と
なってしまいます。本日は、米山記念奨学会についてのフォーラムということで、
各グループ活発な意見が出たものと思います。本日は出席が少なく残念ではあ
りますが、発表の方の熱弁を期待しております。会長挨拶を終わります。

【幹事報告】 三木幹事



- ① 12 月ロータリーレート 1ドル=82 円
- ② 2011 国際ロータリー年次大会参加旅行のご案内が届いております。
- ③ ガバナー事務所より「未来の夢計画」ハンドブックが届いております。
- ④ 根室ロータリークラブより会報が届いております。

【委員会報告】

○ 親睦活動委員会 小泉副委員長

「ニコニコ献金内訳」

☆ その他 家庭集会第2班より

【本日のプログラム】 担当 国際奉仕

● クラブフォーラム

「日本とアジア諸国における米山記念奨学会の意義について」

《齊藤国際奉仕委員長》



本日のクラブフォーラムは、家庭集会の中で充分討論していただいたと思いますので、1班より順に各班の発表をよろしくお願いたします。

《第1班 発表者:小泉会員》



第1班は10名のメンバーのうち、加藤会員、中川会員、石川会員、大坂会員、齋藤会員、小泉会員の計6名の参加で、11月26日(金)「日本とアジア諸国における米山記念奨学会の意義について」をテーマに家庭集会を実施しました。現在の米山記念奨学会のやり方について、少し考えていくことが必要でないかという意見が出ました。それは、米山記念奨学生のうち圧倒的に発展途上国の中国に片寄りすぎていることでもあります。ここで少し米山記念奨学生の数字を調べてみたところ、過去1998年～2008年までの間で10位までのランキングの合計で、13,133人に対して調べたところ、国別では東アジア3ヶ国(中国・韓国・台湾)が10,812人、東南アジア4ヶ国(マレーシア・ベトナム・インドネシア・タイ)が1,735人、南アジア3ヶ国(バングラディッシュ・スリランカ・ネパール)が586人という数字で、中国・韓国・台湾が圧倒的に多々あることがわかりました。その他、東南アジアの方にも寄付金・米山記念奨学生の件についてもっと検討すべきではないかという意見と、米山記念奨学会で使われているお金の流れの詳細は出ておりますが、より細かな所も明朗に知りたいなどという意見も出ました。日本に来る奨学生も多いので、両国が互いに国の良さを見つけて出して信頼関係を築いていくべきことや、米山奨学生の受け入れに関する事、寄付金のことなど、結論は出ませんでしたでしたが議論致しました。

《第2班 発表者:佐藤和彦会員》

参加者：川島会員・山本会員・佐藤（雅）会員・三木会員・金田会員・佐藤（和）会員 計6名
開催場所：居酒屋 みの幸 平成22年11月26日（金）午後6時30分～

討議の前半は、川島パスト会長・山本パスト会長より、米山奨学会についての歴史や仕組み、目的などについて分かりやすくレクチャーしていただきました。普段、ロータリーの活動において何気なく聞き流していた「米山奨学会」について理解できたと思います。後半は前半のレクチャーを踏まえ、現在の国際情勢を照らし合わせ、活発な議論が展開されました。主に議論された内容は次の通りです。

- ・ 何故、中国が米山奨学生の半数以上を占めているのか。
- ・ 現在のアジア圏の情勢(特に中国に)を踏まえ米山奨学委員会は今後、どのような対応をとるのか。
- ・ 何故、日本国内の苦学生に対して奨学制度を設けないのか。
- ・ 何故、共産圏ではロータリークラブが存在しないのか。
- ・ 優秀な留学生は日本ではなく、アメリカ・イギリスなどを目指しているのが現状。

以上、米山奨学会の意義についてはこの内容で議論しましたが、決して結論を出せるテーマではなく、議論のみでしたが各会員が熱く語り有意義な家庭集会だったと思います。その後は、学習塾を経営している三木会員より釧路市内の教育現場の現状についてレクチャーがありました。2時間の限られた時間、フルに議論し脱線することもなく終えることができました。

《第3班 発表者:佐久間会員》

参加者：張江会員・井岸会員・田村会員・谷口会員・櫻田会員・真岩会員・佐久間 計7名

今回の集会のテーマ『日本とアジア諸国における米山記念奨学会の意義について』討議をする上で、田村会員の方で米山記念奨学会の資料を準備していただき、その資料内容としては、

- ① 戦後の復興に伴い1952年東京ロータリークラブで海外、特にアジア諸国から優秀な学生を招き、勉学を支援する就学事業の構想が発表された。
- ② 米山記念奨学会とは、外国人留学生に就学金を支給し支援する財団である。
- ③ (財)ロータリー米山記念奨学会は国内最大の民間奨学事業で、日本のロータリー(ロータリアン)が支えている。
- ④ 多地区合同奉仕活動で、全国のロータリアンからの奉仕金を財源として、理事会は全34地区から選出された理事で構成されている。
- ⑤ 年間の奨学生採用数「800人」、奨学金12億5000万円は民間最大規模であり、奨学生累計1万5776人、出身国は119ヶ国の地域に及ぶ。
- ⑥ 奨学生受入れ時の最大の特長は、「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けて世話クラブを決め、クラブ会員よりカウンセラー役を選任し相談役並びに精神面を支えている。

はじめに討議にあたり、どのような討議をしたら良いのか。現在の世界情勢より、中国・台湾・韓国との領土問題等の中にあって奨学生は中国が一番多いとの現実が挙げられましたが、ロータリアンとしてこれらを踏まえ討議することは論外であるとの結論となり、米山記念奨学会を学び理解することも大事であるが、まず、釧路西ロータリークラブが実際にどのような奉仕活動を行っているかを関連委員会の協力の上で卓話を行い、その卓話で学ぶことで米山記念奨学会を学んでいけるのではないかと結論となりました。

《例会運営委員会 佐久間 委員長》

11月29日 在籍数31名 出席免除者 4名 出席義務者 26名 「編集:佐藤雅之会員」
名誉会員 1名 出席者 16名 欠席者 10名 出席率 51.61%
11月15日 修正出席率 65.63%

会報委員長: 櫻田 美香 副委員長: 斎藤 静枝
委員: 加藤 精二 八村 弘英 佐藤 雅之 小泉 和史